

都市再生整備計画(精算報告)

おおのちょうなんとうぶちく
大野町南東部地区

ぎふ 岐阜県 おおのちょう 大野町

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	岐阜県	市町村名	大野町	地区名	大野町南東部	面積	715 ha
-------	-----	------	-----	-----	--------	----	--------

計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 20 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 20 年度
------	---------------------	------	---------------------

目標 バラ(苗生産日本一)を活かしたまちづくり ○ 道路、公園等の整備を行い、バラを活かした地域イベントを開催し、交流人口の増加を図る。それにより、町の知名度を向上させ、バラ苗木の出荷量の増加を図り、地域経済の活性化を図る。 ○ 安全、安心で快適な住環境を整備することにより、定住人口の増加を図る。

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 ・全国においてバラの苗木出荷量1位である岐阜県の中でも、当町は、苗木出荷量の約50%を占め日本一のバラ苗生産地である。平成14年には、町のバラ苗生産者が新品種である青いバラ「ブルーヘブン」の開発に成功し、中部国際空港の愛称である「セントレア」の名をいただき、「セントレア・スカイローズ」と名付けたバラも生産している。また、当地区の中心にあるバラ公園では、毎年5月に祭りが開催され、町民及び町外より多数の来訪者が訪れ、当町を代表するイベントとなっている。しかしながら、「大野町＝バラ」という知名度は未だ低く、またバラ公園内の整備が不十分のため、地域活性化の核となるには乏しい状況である。日本一のバラ苗生産地の地位を今後も保ちより一層の出荷高増を望んでいる。 ・町道五之里本庄幹線は、バラ公園までへのアクセス道路と位置づけ、地域住民と協力しあい、景観を配慮した道路を建設している。 ・当地区を流れる花田川の両岸は、町外からの観光客を集める道路のひとつであり、地域住民の散策路として利用されているが、経年変化による老朽化が進み、車両及び歩行者等の安全確保が必要となっている。 ・農業婦人を中心に、バラ苗生産日本一のPRとバラのもつすばらしさや花文化の情報発信源となるためのばら工房を設立し、バラのドライ製品の製作・販売をしたり、各種講習会、イベントに参加するなど、町の振興に努めている。 ・平成16年度内にバラ公園敷地内において、バラ苗の研究・栽培を目的とした産地形成促進施設を建設する。 ・岐阜県施策基本方針(西濃県域)に盛り込まれた2005日本国際博覧会連携推進事業「インキュベートビレッジ2005ばら・ユーモアいきいきランド」の推進及び実施。 ・バラを活かしたまちづくりの取り組みの成果(平成14年1月16日 住民参加のまちづくり総務大臣賞受賞 平成18年7月26日 緑化推進運動功労者内閣表彰総理大臣表彰) ・バス路線網の整備を行うことにより、公共交通機関の少ない町のイメージを払拭し、名古屋圏のペッタウンをアピールする。岐阜・名古屋圏の交通手段の一つである名鉄揖斐線の代替交通の整備が急務である。 ・現在のバスセンターは、庁舎駐車場を応急的に利用している。 ・町営住宅については、老朽化のため取り壊しを行い、現在、空地となっており、有効利用が急務である。
--

課題 ・当町の重要な産業であるバラを各方面に周知させる場であり、年間約3万人が訪れる観光施設であるバラ公園を、地域振興の核に育てる必要がある。 ・バラ公園の位置は、国道、主要地方道からの距離があり、立地条件があまり良くないが、今後、東海環状自動車道をはじめ、主要地方道岐阜関ヶ原線(伊吹ばら街道)の整備が行われる予定があり、それに伴い観光拠点として、交通環境の強化が必要となってくる。 ・花田川の両岸道路(加納下磯1号線・2号線)は、歩道と車道で境が無く、地元住民及び観光客の散策として安全確保が出来ないでいる。 ・毎年5月に開催されるバラ祭りに約3万人の観光客が訪れるが、駐車場及び道路の未整備により交通渋滞を起こしている。町民や観光客が安全に来訪できる施設づくりが必要となる。 ・民間事業者の集合住宅の建設及び宅地開発を誘導しながら、快適で住みやすい住環境の整備が必要である。 ・根尾川右岸高水敷が未整備で地域住民や観光客に散策や水に親しむことができない状態である。 ・特定の業者のみにバラ苗木が販売され、一般の人々に対し、紹介及び販売が十分されていない。 ・交通結接点の機能を持った施設整備と来町者への町の情報提供や町民とのふれあいの場が必要である。

将来ビジョン(中長期) 【大野町総合計画】・バラ公園を中心とする当地区は、名古屋市、岐阜市、大垣市に便利な位置にあり、住宅などの土地需要により農地以外への利用が進み、農業者と都市住民の混住化が進行している。よって、農村集落の景観を保持しながら、バラ公園を町の代表する観光施設として位置づけ、道路などの基盤整備を通して心豊かに暮らせるまちづくりを推進することにより、人口の定住化を図る。 【揖斐都市計画区域マスタープラン】・平成17年度に開通する運びとなった東海環状自動車道東廻りルートに続き、整備される西廻りルートの(仮称)大野・神戸ICの北部に隣接する当地区は、主要地方道岐阜関ヶ原線沿線に沿道商業地として、また、その北側を工業系市街地として土地利用の配置の方針としている。東海環状自動車道が整備されると町の玄関口として、来町者と住民がふれあう機会が増えるため、バラと県指定史跡(亀山・北山古墳)を活かし、都市基盤整備を進め、郷土として愛着のもてるまちづくりを推進する。

目標を定量化する指標						
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
1. 施設利用者数の増加	人/年	バラ公園の年間来訪者数	バラを中心とした産業、交流、イベントの発展のため、公園来訪者数の増加を目指す	29,910人	平成15年度	平成20年度
2. バラ苗木出荷量増加	本/年	年間バラ苗木の出荷量	バラを中心とした産業、交流、イベントの発展により、商売上の向上及び町のイメージの向上を図る。	1,217,000本	平成15年度	平成20年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<ul style="list-style-type: none"> 町道五之里本庄幹線については、バラ公園へと誘致するアクセス道路として位置づけ、道路内にバラが植栽された植樹帯を整備をしていく。また、路線の各区画に特色のある歩道を設け、そこを通る人が各ゾーン毎に違いを感じ、その違いを楽しむことの出来る歩道整備を行う。 大野町の主要幹線沿いに、バラ公園へ誘致を促すサインを設置し、来訪者の引き込みを図る 	道路(五之里本庄幹線) 地域生活基盤施設(情報板)
<ul style="list-style-type: none"> 花田川兩岸の道路においては、バラとのふれあいの場、憩いの場とするために、道路を復員を広くとり舗装する。地元住民は勿論、観光客が散策できるように整備を図る。また、近接する道路を整備し、バラ公園から亀山・北山古墳への「史跡散策道」と位置づけ、季節の変化を肌で感じる事の出来る憩いの場を目指し整備を行う。 	道路(加納下礪1号線) 道路(加納下礪2号線) 道路(加納上礪2号線) 道路(上礪南小学校線)
<ul style="list-style-type: none"> バラ公園周辺にある駐車場及び施設については、大野町を代表するイベントのバラ祭りの期間中に、多くの観光客が訪れ賑わいを見せる場所であり、年間約3万人を超える観光客が訪れる場所として、質の高い整備を行うものとする。 大野町の中心市街地に近い根尾川右岸と交通結节点となるバスターミナル周辺において、多くの人が集まる場として自然とのふれあいの場、憩いの場として、地元住民や観光客が散策できるよう歩道、駐車場、広場等の整備を図り、まちの入り口としての環境整備を行う。 	公園(バラ公園) 公園(根尾川パーク) 地域生活基盤施設(ふれあい広場) 高次都市施設(観光交流センター)
<ul style="list-style-type: none"> 地区内の町営住宅跡地に公営住宅8戸と特定公共賃貸住宅24戸の中層耐火構造(4階建)住宅を建設し、まちのシンボリックな建築物として整備し、定住人口を増加させていきたい。 	公営住宅(中之元北団地)
その他	
<ul style="list-style-type: none"> 平成20年代には開通が見込まれる東海環状自動車道(仮称)大野神戸ICの開設に伴い、当町の玄関口となる南東部地区のまちづくり計画は、大変重要な計画となる。また、(仮称)大野神戸IC及び主要地方道岐阜関ヶ原線(伊吹ばら街道)周辺は、工業系市街地の立地が高まること予想されることや、揖斐地域から岐阜・大垣地域へと伸びる主要幹線の交通の要となるため、町の特産物であるバラをいかしたまちづくりが、観光客と住民の交流、特産品のアピール及び地域基盤を整備できると考える。また、特産品のバラ苗を(鉢植え)ITのコンテンツを利用して、バラ愛好者はもとより、全国の人たちに大野町の新品種のバラを紹介し、販売していく。 	

